



CONTENTS		編む NASUSHIOBARA No.1 2026 SPRING
特集記事		
<p>ひとりの好きが、街の糸になる</p> <p>「好きを、編む。」ってなんだろう？</p>	<p>Interview #01 015 「好き」を、掘り起こす。</p> <p>Interview #02 061 「好き」を、仲間と育てる。</p> <p>Interview #03 103 「好き」で、街をデザインする。</p>	<p>016 No.1 山下三奈 (RAKUDA)</p> <p>026 No.2 米倉強太 (映像作家)</p> <p>036 No.3 鈴木誠一 (レトロ三丁目)</p> <p>062 No.4 牛部 (那須拓陽高等学校)</p> <p>072 No.5 安部裕樹 (那須たんぼほ村キャンプ広場)</p> <p>082 No.6 塩田和正 (今井屋製菓)</p> <p>104 No.7 大島彰 (那須塩原市)</p> <p>114 No.8 塩原温泉まちめぐり案内人の会</p> <p>126 No.9 山川将弘 (森林/牧場)</p>
Cover Story		
<p>011 坂本菜月 (那須塩原市 那須野が原植物園)</p> <p>010 岡鉄之 (那須塩原市 岡鉄之)</p> <p>009 堀井哲平 (那須塩原市 堀井哲平)</p> <p>008 小倉政貴 (那須塩原市 小倉政貴)</p> <p>007 田代寿樹 (那須塩原市 田代寿樹)</p> <p>006 山本博一 (那須塩原市 山本博一)</p> <p>005 種瓜克至 (那須塩原市 種瓜克至)</p> <p>004 室越礼一 (那須塩原市 室越礼一)</p>	<p>何を、編む？ 私にとって「好きを、編む。」とはなんだろう？</p> 	
YellowPage		
<p>046 那須塩原と「歴史」 星野恵美子 (那須野ヶ原土地改良区連合)</p> <p>050 那須塩原と「祭り」 阿久津雄一 (神輿同好會 樂舞)</p> <p>054 那須塩原と「温泉」 田中佑治 (湯守田中屋)</p> <p>084 那須塩原と「アート」 渡辺美知太郎 (那須塩原市長)</p> <p>098 那須塩原と「まちづくり」 武田陽介 (那須塩原ブランドユニットプロジェクト)</p> <p>140 那須塩原と「食」 平山 翔 (SHŌPAIN ARTISAN BAKEHOUSE)</p>	<p>144 数字で知る 那須塩原市</p> <p>148 Nasushiobara GO OUT Map</p> <p>150 Walking Map</p> <p>153 LIST Events</p> <p>154 LIST Brand</p>	
企画記事		
<p>011 坂本菜月 (那須塩原市 那須野が原植物園)</p> <p>010 岡鉄之 (那須塩原市 岡鉄之)</p>	<p>046 那須塩原と「歴史」 星野恵美子 (那須野ヶ原土地改良区連合)</p> <p>050 那須塩原と「祭り」 阿久津雄一 (神輿同好會 樂舞)</p> <p>054 那須塩原と「温泉」 田中佑治 (湯守田中屋)</p> <p>084 那須塩原と「アート」 渡辺美知太郎 (那須塩原市長)</p> <p>098 那須塩原と「まちづくり」 武田陽介 (那須塩原ブランドユニットプロジェクト)</p> <p>140 那須塩原と「食」 平山 翔 (SHŌPAIN ARTISAN BAKEHOUSE)</p>	<p>144 数字で知る 那須塩原市</p> <p>148 Nasushiobara GO OUT Map</p> <p>150 Walking Map</p> <p>153 LIST Events</p> <p>154 LIST Brand</p>

雑誌を作る過程で大切にしたのは、みんなで作り上げること。特に今回は、編集部員として地元の高校生が参加しています。高校生の真っすぐな好奇心を大切に、彼らの目線でまちを見つめ直すことで、大人だけでは気づけなかった日常の魅力や期待が、等身大の言葉で詰め込まれています。まちの魅力とは、住む人の思いが重なり合って形になるもの。この1冊が、あなたの「好き」と向き合うきっかけになりますように。



問い合わせ先
企画政策課 ☎0287(62)7106



「好きを、編む。」ってなんだろう？



そんな素朴な問いから出発した特集では、市内でこの理念を体現する9名の方々にじっくりとお話を伺いました。彼らがなぜこのまちを拠点に選び、日々の暮らしの中でどのような想いを抱いて活動しているのか。その背景とまちとの関わりを3つのカテゴリから静かにひもといていきます。そこにあるのは決して大げさではない等身大の言葉と静かな熱意です。

また一つの雑誌としてテキストを味わう「読み物」としての深みも大切にしました。まちを構成する多様な要素について、さまざまな方々に寄稿していただいた「那須塩原と〇〇」をテーマとする6つのコラム。そしてパーパス策定にご協力いただいた8名の方々による「好きを、編む。」をめぐる自由寄稿。多様な視点が交差するページは読むたびに新しい発見を与えてくれます。

さらに各ページを鮮やかに彩るのは、市内16事業者の活動をテーマにした美しいアートワークです。編集チームのデザイナーが「それぞれの活動×好きを、編む。」を描き出しました。言葉とアートが織りなす世界観を通して、まだ知らない那須塩原の新しい魅力にきっと出会えるはずです。

編集会議でさまざまな方と意見を交わす中で、自身の見識を広げることができました。この経験を活かせるよう、日々の生活を送ってまいります

高校生
編集メンバーの声

普段活動している牛部のありのままの姿を知ってほしくて自ら取材先に選びました。この記事を通して少しでも牛を好きになってもらえたら嬉しいです

普段は人と関わるのが少し苦手な私ですが、今回の雑誌制作のように多くの人と関わるプロジェクトに参加できたことは、とても良い経験になりました。この経験は忘れません

カメラマンを担当し想像する景色と実際に写る写真とのギャップに悔しい思いもしました。しかし諦めずに撮り続けるうちに納得できる写真が撮れるようになりやり続ける大切さを実感しました

実際に取材してみて、取材を始める段階から、その難しさを実感しました。質問を考える際には、自分の中にある「知りたいこと」を言葉にしてアウトプットすることの難しさも感じました。今回の雑誌を通して、皆さんの熱意が少しでも伝われば嬉しいです

さまざまな人の話を聞く中で「つらいことがあってもその先に良いことがあるかもしれない」という生きていく上で大切な考え方を得ました。これからの人生が楽しみにになりました

